

# 北崎体育

発行所 柏崎体育団

編集人 事務局広報部

印刷所 柏崎印刷株式会社



近藤団長おめでとう!!

近藤禄郎団長に二つのおめでたがありました。

その一つ、去る3月26日開催の日本体育協会評議員会において新たに『日体協理事』に就任されました。同理事は、会長等を含む30名で構成されており、近藤さんは日体協加盟地方団体代表で新潟県から選ばれたものであります。

その二つ、これも去る10月9日、東京皇居前の東条会館において、文部大臣より『体育功労者』として表彰されました。

これは例年文部省が地域または職域におけるスポーツの健全な普及発展に貢献し、地方体育の振興に寄与された個人、団体を表彰するもので、柏崎市では過去に『柏崎体育団』が昭和25年に、故坂田四郎吉氏が昭和33年に、更に『鯨波体育同人会』が昭和46年に受賞しております。

このことについて本団理事会は10月6日の会議において祝賀会を計画し、各方面から205名の参加をいただき、10月22日産業会館大ホールにおいて写真のように盛大な祝う会を開催いたしました。

近藤団長、おめでとうございます。

あしあと

6	5	27	県体協理事会、評議員会(新潟)
•	1	第11回県民スポーツの日・スポーツ大会(庭球、卓球、婦人バレーバドミントン)	
6	3	柏崎体育団理事会(SH)	
6	5	7 県高校総体陸上競技大会	
6	6	8 県民スポーツの日第二部(トランボリン)	
6	6	10 陸上競技審判講習会	
6	6	14 陸上競技場検定・四〇〇㍍走一歩で合格	
6	6	22 おにぎりサイクリング(大崎海岸)	
7	7	11 柏崎体育団理事会	
7	7	17 夏休みラジオ体操合同大会	
7	7	5 鯨波地区民体力テスト	
9	8	9 北信越身体障害者体育大会	
9	8	17 市民皆泳の日プール無料公開	
9	9	9 郡市社会体育担当者会議	
9	9	13 第23回北陸バスケットボール選手権大会	
10	9	21 本府へ移転おにぎりサイクリング(鰯石ふどう園)	
5	•	中鰯石地区民体力テスト	



写真は市役所ロビーで壮途を祝う職員の歓送風景(別掲)

## 柏崎クラブが快挙!

### バスケットボール国体出場

柏崎クラブのバスケットボールチームが三重県で開催される

第30回国民体育大会バスケット

ボール(成年男子一般の部)の

出場権を獲得し、十月二十四日

勇躍壮途につきました。

同クラブは、市内高校を卒業

した選手为主体にチーム編成さ

れ、主力選手の大部分が市役所

勤務であることから、チームワークのよさと共にメキメキと実力をつけて来ていた。

### 第30回三重国体出場者

(柏崎地区関係)

#### ◎バスケットボール

(成年男子一般)  
監督 大谷 正利(市役所)

選手 高野 悟(理研)  
須田 正明(市役所)

小林 正行(〃)  
小嶋 博文(研精舎)

中原和雄(新潟メソン)  
任期満了とともに後任委員として次の十三氏が柏崎市スポーツ振興審議会委員に任命された。任期は昭和五十年九月から二ヵ年。

## スポーツ振興審議会新委員きまる

任期満了とともに後任委員として次の十三氏が柏崎市スポーツ振興審議会委員に任命された。任期は昭和五十年九月から二ヵ年。

岡島 利夫(柏新時報社主幹)  
大橋 慶郎(市議会議員)  
川合 康弘(柏崎高三年)  
梅津 亀男(医師)

### 第一回スポーツ振興

学識経験者  
近藤 緑郎(柏崎体育団長)  
今井 哲夫(同副団長)  
月橋 奎同  
外山 三郎(社教委員)  
田辺 啓三(柏崎高校長)  
清水 八郎(市中体連会長)  
品田 奥藏(市小体連会長)  
曾田 柳子(栄養士)

新委員による第一回審議会

が、去る十月二十日スポーツハ

ウスにおいて開かれた。

先づ今期の会長、副会長の選出を行ない互選により、会長三富八百治氏、副会長外山三郎氏ときました。

つづいて柏崎市体育施設整備計画について諮問があり、事務局よりの説明、これについて若干の意見交換を行なった。柏崎市の体育施設は、陸上競技場はじめ総合プール、市民球場等市中央部には相当数配置されているものの、最近のスポーツ人口の増大、各地域へ平均的配置など考えあわせると、やはり不足であるといえるのではないか。今後も計画的な新設、整備が必要である。その大綱を定めたい、というのが市当局の諮問内容である。これに対しても各委員から、柏崎市の体育施設は体育の街と称される原因をなすことからこの計画は早急に樹立し実践してほしい。この計画が、それは古い話で、その称赞に酔いすぎて、時代に即応した振興整備策を怠った。施設整備こそは体育振興の根本対策であることは体育振興の根本対策である。既存の施設の拡充、整備も必要である。施設整備と体育大学誘致と関連づけできなかつた。県立高校等の施設にも愛護の手をのばしてほしい。等々の意見がだされた。今後充分討議を重ねて成案を得た上で答申することになった。

柏崎商業高校の先生で柏崎庭球連盟理事長として選手養成やスポーツ教室の指導にご活躍の品田吟一さんは、このたび亡父品田吟一さん(香典返しとして『青少年体育振興』の一助にと金三万円を柏崎市功労者(社会福祉功勞)として表彰され七月二十八日に亡くなられました。故品川鉄男さんは去る七月一日に昭和五十年度柏崎市功労者(社会福祉功勞)として表彰され七月二十八日に亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

宮崎体育課長退職 昭和四十七年四月一日第二代体育課長として就任された宮崎七郎氏は、十月三十一日付をもって定年退職となられました。在職三年七ヶ月。ごくろうさまでした。後任の発令はなく暫く次小林教育長が代行されます。宮崎氏在任中には幾多の事業が完成しており、特に

◎中越スポーツハウスの建設と運営

◎野球場・白竜テニスコートの夜間照明設置

◎北条運動場・鰐石コミュニティーグラウンドの建設

◎鶴川スキー場ジャンプ台建設

◎心電図測定の実施等对外的折衝の多い事業が進展して来ました。しばらくは晴耕雨読の日とか。ご健康をお祈りします。



長以下みんな悪戦苦闘したのである。柏崎國体は、時流をうまく利用し、あらゆる困難を克服して、年來の難問題を解決したことによりて県内他の追従を許さないものがあると自負している。

あり、では仕方ないと、いってあげてもらつたこともある。鮮やかな青に市章をいれた市旗(?)をつくったのもこの時である。

また、国体選手の受入れは、実質を充実することが本旨であるとして、選手の食事と練習場とには完璧を期した。国体選手は練習場の数が少ないと、設備の悪いのに泣くものだが、柏崎では練習場の余りが出る程であった。見てくれの接待だけよくて、肝心かなめの食事と練習に手の抜けるのが多くの国体会場である。ここ所は今回の三重国体は果してどうであつたろ



阿部章夫君

全日本中学生陸上大会で

柏崎勢大活躍する!!

八月十六、十七日国立競技場で第二回全国中学生陸上選手權が開かれ、全国の精銳がその力を競つた。

が予選タイムレースで行なわれ  
第二組に出場し、二分一秒三で

二位という結果発表になつた。この三君の活躍は全国に「

一位川尻 真(柏崎)  
東中 4分15秒2  
二位武政英信(柄木) 4分15秒2  
三位花野 実(新潟)  
乙 4分17秒2

有数の煙火製造工場があるのに、煙火一発もあげないのは情けない、私達が寄付するから三発あげさせてくれという陳情が

三軒の煙火製造工場があり、そ  
にきめた。無駄、無意味だから  
である。ところが当時、市内に

あるべきで、それは自ら決定すべき問題である。佐賀国体の反対運動を新聞で見る限りでは、県内できめられる問題がほとんど

らの考へかない自主性欠陥の体  
育觀を改めてかかるべきではな  
かるうか。

A black and white head-and-shoulders portrait of a man with dark hair and glasses. He has a neutral expression and is looking directly at the camera.

川尻真君

である。何も声を荒げて全国に呼びかける程の問題でない。まして政党の問題などになる次元のものではあり得ない。体育と

決勝進出を果たし、決勝で堂々六位に入賞した。

長距離の柏崎強し」の印象を植えつけたすばらしい活躍だった。



3,000メートル前0.2秒差の大接戦

(左が石上君)

三君とも素質に恵まれていたことはもちろんだが、それを上回る練習の努力が実を結んだものと思われる。指導の渡谷（二中）、後藤（三中）、坂井（東中）の各先生方と、柏崎陸協が行なう計画的な競技力向上教室特に冬期練習等に於ても、陸協関係者がオールスタッフで中高選手、川尻君を頂点にして、来校生の区別なく指導された賜ものと思う。石上、阿部の両君はまだ来年もある年もまた多くの選手が、全国大会に出場し、そして大活躍してくれるのを期待したい。



か。 いてよいのだろうか。又逆に歴史に押しつぶされていないだろうか。歴史のかくれ蓑の中にぬくもりこもってはいいだらう

わたしはこの三、四年「柏崎は体育の街ですね」と云われる  
ことが一番つらい。それ以前は『いやあ、そうでもないす  
よ』程度であったが、今は『と  
んでもない』と云つてみたり、  
言葉をつまらせてみたりする。

長岡、上越、三条に勝っているとは思えないし、中条、黒川などの町村行政にもひけをとらうとしている。

「柏崎の体育の歴史」については、それを築いて来た人達が今なお現実に柏崎の体育の頂点におられ、その偉大さは理解出来るが、その人達を除いたら現在の柏崎の体育は何をもつて「体育の街柏崎」と胸を張れるだろうか。今こそ歴史の蓑笠をつき破り、ぬくもりをはねのけて立上らねばならないと思うし、わたし自身は少なくともそれが先兵でなければならぬと思つてゐる。片流れ戦争にて

てゐる。昔流の戦争にたとえれば、銃の先に剣をつけ、ときの声を挙げて敵陣地に突入する一等兵の姿である。先兵を待つものは九九%が死である。

しかし今は壮烈な死に陶酔してはいられない。敷陣地に突撃

を計る前に味方の陣営がくずれかけている。課長空席がそれである。宮崎体育課長は月末日をもって円満退職。しかし後任は来年四月まで発令なし。前外山課長の折も今と全く同じであった。三大市民運動の一つ「市民の健康・体力つくり」の表看板はいすこにありと、その市政の姿勢には不満もあり、くやしさもある。

恒例の新善体育懇親会がある。優秀体育人表彰式がある。つい先日近藤団長を祝う会があつた。いずれも体育団主催事業だが、団長の代りに月橋副団長が挨拶し、今井副団長が助役として市長代理の祝詞をのべる。

さつきから「歴史の蓑笠」と云つてゐるが、われわれを風雨から守つてゐる蓑笠とは何か。誰か。はつきり申しあげて今井哲夫氏（市助役）であり月橋套氏（市ガス水道事業管理者）である。この二人の蓑笠は柏崎の現在をすっぱりと覆い包んでくれている。それは大変ありがたいことである。しかし、ありがたいことだがこの中にいると外へとび出す氣がしなくなる。これが困るのである。早くこの笠をすれば、蓑をはねのけなければならない。『柏崎の体育』の憂いはここにある。

あつた。過去十年、いや二十年くらいはとんどこの状態が続いているんだろうか。わたしはこれが蓑笠の中のぬくもりに閉じこもった柏崎の体育だと思うのである。今井さん、月橋さん。責任があると云えるだろうか。

二人である。要するにこの「一人が発言し答えてくれることは、単に体育団としてそう決めたことのみでなく、市としてもそう考へていると思われてしまうのである。だから「助役が云うからにはそうしておけばいい」とか「月橋さんの意見だから市としても考えててくれるだろう」に最後はおちつく。それ以上の努力はわずかでいい。誠にありがたいし楽である。なごやかである。しかし、本当にこれでいいのだろうか。たしかに二人の人たちは立派な意見も実行力もあり、わたし個人では最も敬愛する人であり、まかしてついて行けばまちがいないことだけれど、こ

**おねがい** この機関  
紙は、みなさんのご意見を  
おきかせいただく窓です。  
いろいろな方からの体育に  
関するお考え、ご意見、ご  
批判をお待ちします。

橋さん個人を非難するなど毛頭ないが、柏崎の体育に関する主 要なもの全てに今井、月橋があり、ものの相談の最後には 「今井さんにまかせ」「月橋さんの云う通り」となってはいな いだろうか。

すっかり二人におんぶしても う楽で楽で、一人で歩こうとも せず、寒さを感じて何か一枚着 ようと手をのばして探しはする が、おんぶから降りて自分で動 いて身体を暖めようとはしな い。動きを忘れた体育なんであ り得ない。今井さん、月橋さん を乗り越えて試練に立ち向う気 慨と研究心をわれわれが持たね ばならないのである。

しかしないとも云えるだろうか。又、ぬくもりから出ようとしない者の責任はどうなのか。

心・技・体と云われた三人の築かれたものや、今井さん、月橋さん個人を非難するなど毛頭ないが、柏崎の体育に関する主要なもの全てに今井、月橋があり、ものの相談の最後には「今井さんにまかせ」「月橋さんの云う通り」となってはいいだらうか。

すつかり一人におんぶしてもう楽で楽で、一人で歩こうともせず、寒さを感じて何か一枚着ようと手をのばして探しはするが、おんぶから降りて自分で動いて身体を暖めようとはしない。動きを忘れた体育なんてあり得ない。今井さん、月橋さんを乗り越えて試練に立ち向う気概と研究心をわれわれが持たねばならないのである。

「柏崎の体育を憂う」などと大上段に振りかざしはしたが、浅学非才の身では單なる愚痴となり、駄弁をつらねて紙面を汚してしまった。ご笑覽・ご批判をお考え、ご意見、ご批判をお待ちします。